

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 I Career Development I	年次	1	実務経験	担当	太田亜貴子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
		単位	2			
講師紹介	化粧品企業に入社後、ビューティアドバイザーとして都内百貨店で10年間勤務。セクションマネージャーとして店舗運営、美容部員育成にも携わる。業界経験を活かし、トータルビューティ科の担任として学生サポート、就職指導を行う。					
目的 科目概要	業界および職種について理解を深め、自分の目指す職業像を明確にする。またプロになるために必要な自己管理、身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。			
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握し、言葉の花束を贈る。
2	個人とクラスの目標	1年後の自分、クラスを創造し目標を決める。 オリエンテーションで決めたクラスノームについてどのように取り組むかを自分たちで決める
3	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
4	日常行動スコアシート	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。
5	職業研究①	トータルビューティ科で目指せる職種(ビューティアドバイザー、エステティシャン、ネイリスト)を理解する。
6	職業研究②	トータルビューティ科で目指せる職種(ビューティアドバイザー、エステティシャン、ネイリスト)をさらに深く理解する。
7	中間試験	入学してからを振り返り、学べたこと・今後身につけていきたい事をまとめる。
8	国際教育について	海外の美容業界を理解する。
9	プロの職業人を目指すにあたって①	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
10	就職・実習に向けて今から準備すること、重要事項を知る	就職・実習に向けて今から準備すること、重要事項を理解する。
11	プロの職業人を目指すにあたって②	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
12	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。
13	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントを体験することで、自分自身をセルフコントロールできるようになる。
14	定期試験	美容業界で自分が目指す職業人についての知識をアウトプットすることが出来る。 半年間の振り返りも同時に行う。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。 整理をすることで自分自身の課題を見つけ、今後の卒業までの目標を改めて考える。

科目名 (英)	導入教育 First Year Experience	年次	1	実務経験	担当	太田 亜希子
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的意識を高め、プロに必要なことが何か意識すること。					
到達目標	同じ目標を持った仲間との相互支援環境を作る					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握する。
2	他己紹介	伝える為の情報収集力、伝える為の伝達力を身につける。
3	学生便覧確認	学園、学校の規則を把握し、今後のスケジュールを理解する。
4	授業、教材説明	授業ルールと教材の意味を理解する。
5	授業の受け方	各科目で必要な事前情報を習得する。
6	キャリアサポートアンケート	自分のキャリアを見つめなおす。
7	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
8	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
9	ITリテラシー	インターネットセキュリティを学ぶ。
10	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
11	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
12	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
13	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
14	入学式に向けて	今後の流れを確認し、初回授業を迎える準備をする。
15	まとめ	導入教育で学んだ知識をアウトプットすることが出来る。

科目名 (英)	おもてなし Omotenashi	年次	1年	実務経験	担当	石田智子
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
		単位	2			
講師紹介	百貨店などさまざまな接客サービスの現場経験から得た実体験を交えた講義を行う。個人技に近い「おもてなし」を自然に自分自身で学び取るために、講義及びペアワーク・グループディスカッションを取り入れた進行のため、真剣に積極的な気持ちで毎授業参加すること。					
目的 科目概要	接客業に必要な「おもてなし」の心を育む。お客さまの快適と安心を心掛け、心の要求をかなえるだけでなく、常に満足を超えた感動を生み出せるおもてなしマスターとなるために、おもてなしの「心・型・スキル」を検定教本を通して体系的に学ぶ。					
到達目標	「おもてなしマスター」資格を取得する。 おもてなしのプロとして、顧客の声を聴き、観察し「相手が何を望むか」をさまざまな角度から自ら考え行動できる態度を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本		事前事後 学習と その内容	「おもてなしのプロ」としてふさわしい、笑顔、挨拶、姿勢、身だしなみ、言葉づかいを常に意識すること		
教材						
特記事項	毎授業「教本」とおもてなしノート(初回説明あり)、筆記用具一式を必ず持参すること。決められた席に座り、ワークの際は速やかに移動すること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	講師自己紹介・科目オリエンテーション(授業ルール・評価について・資格検定についてなど)
2	「おもてなし」とは何か	日本における「おもてなし」と実例紹介・グループワーク「おもてなしとは」
3	おもてなしの心3つと基本となる型	教本におけるおもてなしの心3つの解説と、基本となる5つの型について
4	型1 事前調査	事前調査の必要性・傾聴スキルについての解説とグループワーク
5	型2 時間管理	時間管理とは・タイムルール(3時間・30分・3分ルール)・自身の時間管理について考える
6	型3 環境設定	五感と季節を意識した、お客さまにとって気持ちの良い空間準備について考える
7	中間試験	中間試験実施・終了後の解答解説から自身の課題を抽出をする
8	型4 場面演出	場面演出の目的・イベント演出のスキル・プレゼンテーションスキル(グループワーク)
9	型5 変化対応①	アサーション(さわやかな自己表現)の4つのタイプ・アサーションチェック
10	型5 変化対応②	ポジティブシンキング(グループワーク)・ストレスマネジメント力の養成について
11	5つのどの型にも有効な共通スキル①	4つの共通スキル・なぜなぜシンキング・KJ法・記述問題対策について
12	5つのどの型にも有効な共通スキル②	エゴグラムとエゴグラムチェック・コーチングとは・記述問題対策について
13	振り返りとまとめ	おもてなしマスター検定に向けて、最終的な準備を整える
14	過去問題及び記述問題対策	過去問題及び自己採点・理解できていない箇所の理解度を深める
15	定期試験	おもてなしマスター検定に合格する

科目名 (英)	ヨガ Yoga	年次	1年	実務経験	担当	藍 智美 手塚 沙也花
		授業形態	演習			
	時間数	30				
学科・コース	トータルビューティ科	単位	2			
講師紹介	フィットネスインストラクター、パーソナルトレーナーとしての経験を積み、ヨガの講師育成、フィットネスプログラム開発に取り組む教員が、ヨガの知識やポーズだけでなく現代社会においてヨガの効果を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	実技を中心に行い、学生生活はもちろん、卒業後も各自にあったヨガに取り組めるよう学ぶ。ヨガは体幹を鍛え、基礎体力の向上や心身ともにリフレッシュができるため、学習効率も上がることが期待できる。実技がメインで継続することで心身の変化を得られるので、積極的に授業に臨んでほしい。					
到達目標	ヨガを通して、心と身体のセルフコントロールを身につける。ヨガの理論を概観して、自身に気づき・整え・心身の向上を習得。ポーズを実践することで、柔軟性や体力の向上を目指し、見られる美しい姿勢を保つ。呼吸や瞑想で、集中力をつけ穏やかで活力に満ちた気持ちのコントロールを高める。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	講義と実技を授業内に行う。		
教材	随時配布					
特記事項	開脚や脚を上げることを妨げない運動着で受講。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ヨガを体験し、参加者同士で意見を述べる。現時点での自身の改善課題を見るける。
2	ヨガの基礎知識① パワナムクタアサナ	ヨガの成り立ちや歴史、思想を理解し説明できる。
3	ヨガの基礎知識②	基本原理の八支則を理解し、日常の取り入れかたを考察できる。
4	チャクラ アロマの効果	チャクラを理解しヨガで体感してみる。アロマの取り入れ方を知る。
5	骨盤の動き 前屈と後屈のポーズ	骨盤の働き、解剖学を理解しプラクティスに応用できる。
6	背骨の動き 捻りのポーズ	背骨の働き、解剖学をを理解しプラクティスに応用できる。
7	中間試験	今までの学習がアウトプットできるようになっているか評価する。
8	アライメントチェック	正しい姿勢を理解し、筋力不足がどこにあるか予測。相手の姿勢評価をし修正を提案する。
9	マインドフルネス(瞑想)	マインドフルネスのプラクティスを生活に応用できる。
10	アクティブなヨガ 自律神経	パワーヨガなどのアクティブなヨガを知り、自律神経との関わりを説明できる。
11	リラクスのヨガ 自律神経	陰ヨガなどのリラックスするヨガを知り、自律神経との関わりを説明できる。
12	陰陽 ヨガと食事	陰陽の性質を理解し、生活に取り入れ選択することができる。
13	プラーナヤーマ ムドラー	代表的な呼吸法を実践できる。ムドラーの意味を述べることができる。
14	チャレンジポーズ	アクロバティックなポーズのメカニズムを理解し、プラクティスに必要なポーズを選択できる。
15	定期試験	習得できた内容を確認し深める。

科目名 (英)	メイクアップ I Make up I	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するマナー、専門知識、ナチュラルメイクの基礎的な技術を学ぶ。 科目概要:メイク基礎を学びJESCメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。					
到達目標	正しいメイクアップのマナーとセッティングの仕方を習得する 正しい化粧品の使用方法を理解し、限られた時間内でナチュラルメイクを仕上げることができる。 パーツごとにナチュラルメイクの正しい技術を習得することができる。 バランスの良いナチュラルメイクを仕上げることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Make up foundation 1	事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取ることを。			
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時にコマシラバスの提出し課題点とする。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マナー・セッティング・スキンケア	正しいセッティングの仕方を習得する メイクアップの様々なマナーを理解する スキンケアの手順を理解する
2	ベースメイク	セッティング～マナーの確認、スキンケア復習。正しいセッティングの仕方を習得する スキンケアの手順を習得する。 ベースメイクの種類と特長、作り方を理解する。
3	アイブロウ	スキンケア～ベースメイク復習。スキンケアの手順を熟練する。 ベースメイクの作り方を習得する。 アイブロウアイテムの種類と特長、描き方を理解する。
4	アイメイク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウ復習。ブラシを使ったアイシャドウの付け方、グラデーションの出し方、アイラインの引き方、ビューラーの使い方、マスカラの付け方を学ぶ。
5	リップ・チーク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウおよびアイメイク復習。アイメイクの仕方を習得する。 リップラインの描き方を理解する。チークの付け方を学ぶ。
6	中間試験に向けたトレーニング	1～5回目までの総復習。時間に入ることと完成度のバランスを上げることを目指す。
7	中間試験	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
8	フルメイク	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
9	ゴールドンプロポーションとシェーディング	フェイスプロポーションを計測し顔のパーツの配置の違いを理解する。顔の黄金比を知り、美しいパーツ配置のバランスを理解する。ハイライトとシャドウによるベースメイクの立体感の付け方を学ぶ。
10	アイブロウの形を変えて描く	シェーディングを含めたベースメイク。過不足無い自然な立体感のあるシェーディングを習得する。自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を理解する。
11	アイシャドウの横グラデーション	自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を習得する。 縦グラデーションと横グラデーションの違いと特徴を理解する。
12	立体的リップとグラデーションリップ	横グラデーションのアイメイクを習得する 立体的なリップラインの描き方を理解する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を理解する
13	立体的なチーク	立体的なリップラインの描き方を習得する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を習得する 立体的なチークの入れ方を理解する
14	フルメイク	9～13周までポイント含むフルメイクを習得する 時間内(30分)でフルメイクができるスピーディに仕上げる技術を習得する 定期試験の注意事項を確認する
15	定期試験	フルメイク(30分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(30分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。

科目名 (英)	検定対策 Examination	年次	1年	実務経験	担当	阿部 恵理子 台 英行
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティー科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ネイリストとしてサロンワークやスタッフ育成に携わり、長年講師活動や検定試験官として活動する教員が、最新の業界情報を基にネイリスト技能検定試験3級合格を目指した授業を行う。ヘアメイク事務所に所属し美容師を務めたのち、撮影現場や大手化粧品ブランドのヘアメイクアーティストとして活躍中の講師。					
目的 科目概要	ネイルの基礎を身につけ、ネイリスト技能検定試験3級合格レベルの実力をつける。 JESCメイクアップアーティスト検定を取得する為の検定対策。メイクアップアーティストを目指すためにメイクの基礎知識と基礎技術を習得する。					
到達目標	ネイリスト技能検定3級合格レベルに達することが、出来る。 JESCメイクアップアーティスト検定を取得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	テクニカルシステムベーシック		事前事後 学習と その内容	合格レベルを目指し自宅での復習を行うこと。		
教材	ネイル道具一式					
特記事項	自身の爪は自爪(ナチュラルネイル)で授業に臨むこと 授業前にメイク道具をセッティング					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	テーブルセッティング/ファイリング/カラーリング	教材チェック、シールを貼る。テクニカルシステムベーシックを見ながら、ネイル用具や溶剤を規定通りにテーブルにセッティングしてファイリングやカラーリングの勉強をする。
2	キューティクルケア/カラーリング	甘皮のケアとカラーリングを練習する。
3	ファイリング/キューティクルケア/カラーリング	3級合格の工程ポイントに気を付けながらファイリング、キューティクルケア、カラーリングの復習をする。
4	ファイリング/キューティクルケア/カラーリング	3級合格の工程ポイントに気を付けながらファイリング、キューティクルケア、カラーリングの復習をする。
5	ペイントアート	赤ポリッシュの上にアクリル絵の具でお花を描く練習をする。
6	3級タイムトライアル①	タイムを計って3級合格の工程ポイントに気を付けながらファイリング、キューティクルケア、カラーリング、ペイントアートの復習をする。
7	3級タイムトライアル②	タイムを計って3級合格の工程ポイントに気を付けながらファイリング、キューティクルケア、カラーリング、ペイントアートの復習をする。
8	中間試験	3級内容を時間を計ってタイムトライアル。3級合格レベルを目指す。
9	JESC筆記対策・実技対策①	筆記:セッティング・ベースメイクのアイテム種類と特徴など 実技:ベースメイク
10	JESC筆記対策・実技対策②	筆記:アイメイクのアイテム分類と特徴など 実技:ベースメイク～アイメイク①
11	JESC筆記対策・実技対策③	筆記:アイメイクのアイテム分類と特徴など 実技:ベースメイク～アイメイク②
12	JESC筆記対策・実技対策④	筆記:チーク・リップのアイテム分析と特徴など 実技:フルメイク(40分内を目指す)
13	JESC筆記対策・実技対策⑤	筆記:皮膚理論と過去問題など 実技:フルメイク(30分内を目指す)
14	模擬試験・実技対策 定期試験対策	筆記:過去問題と筆記対策 実技:フルメイク(30分内)
15	模擬試験・実技対策 定期試験	筆記:過去問題集から出題 実技:フルメイク(30分内)

科目名 (英)	ネイルケア&アート nailcare & art	年次	1年	実務経験	担当	阿部 知美 殿村 雅子
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	トータルビューティー科	単位	4			
講師紹介	木下ユミメークアップ&ネイルアトリエ所属のネイリストとして現場の経験を活かし技術指導を行う。					
目的 科目概要	ネイリスト技能検定3級の試験に合格するための理論と実技を習得。デモを取り入れ、基本である道具の準備、実技や接客の手順・テーブル回りのセッティングを学ぶ。ネイリスト技能検定3級に合格するためのネイルケアカラーを理解や検定3級スタイルを覚えネイル検定3級内容を把握し受講してほしい。ペイントアートをマスター出来るようケアカラーやアート総合タイムトライアルを取り入れ、検定3級直前には模擬試験を実施。合格を目指し授業に臨んでほしい。					
到達目標	3級の実技を学びネイリスト技能検定3級の試験の合格レベルに達するよう技術を習得。 相モデルを取り入れ実際にトレーニングを行う。 中間試験と期末試験を取り入れ、タイムトライアルで時間も意識していく。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	教科書 【プリント(補助教材)】 随時配布			事前事後 学習と その内容	技術・教科書の予習・復習をすることが望ましい。	
教材	ケアカラー道具、アート道具					
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモを取る事。講義において、ノートを丁寧に取る事。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ネイルケアカラーを理解する	使用教材を覚える。手順・セッティングを覚える。デモ、道具準備、セッティング。
2	ケアの徹底トレーニング・概論(歴史、爪の構造)	ポイントデモ・相モデルトレーニング、講義
3	カラーリング徹底トレーニング	カラーリング、修正。 ポイントデモ・ペーパーカラー・相モデルトレーニング・概論(爪の病気とトラブル)。
4	検定3級スタイルを覚える。	ネイル検定3級内容を理解する。要項説明・実技採点基準ポイント。
5	ケアカラーと筆記対策・概論(消毒法)	講義・相モデルトレーニング
6	ケアカラーと筆記対策・概論(生理解剖学、皮膚科学)	講義・相モデルトレーニング
7	中間試験	相モデル ケアカラー(70分)
8	ケアカラー復習	ケアカラートータルトレーニング。相モデルトレーニング。
9	ペイントアートをマスターする	検定課題のお花のアート。色彩学。ポイントデモ・ストローク練習、チップトレーニング。
10	ケアカラー、アート総合タイムトライアル	ケアカラートータルトレーニング。相モデルトレーニング タイムトライアル。
11	検定3級直前の模擬試験	3級内容のタイムトライアル。ポイントデモ・相モデルトレーニング。
12	検定実技報告	出来たとところと出来なかったところを自己採点。相モデルトレーニング タイムトライアル
13	コンテスト対策ケアカラー	ケアカラー復習。3種塗分け(マット、パール、シアー)デモ、相モデルトレーニング。
14	コンテスト対策ケアカラー	コンテスト向けケアカラータイムトライアル。相モデルトレーニング。
15	定期試験	ケアカラー(70分)

科目名 (英)	ヘアメイク I Hair MakuUp I	年次	1	実務経験	担当	渡辺 美咲
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティー科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	美容師を経験した後、ヘアアーティストに師事。その後 自身も事務所に所属、フリーのヘアアーティストとして活動。東京コレクションやパリコレクション、広告や雑誌、カタログなど様々な内容の現場を経験。現在は着物に合わせたヘアアレンジ、ヘアセット等も行っており、幅広い経験を生かした授業内容やアドバイスを取り入れ基礎からしっかり学んで頂きたいと思います。					
目的 科目概要	ヘアの基礎を作り、バランスの取り方や構成を的確に学ぶ。					
到達目標	基礎からしっかりと技術を学び、ヘアアレンジを楽しむ。数をこなす事により技術も身に付き自信に繋がります。相モデルを組み、人頭に触れることで接客の勉強やマナーも取得して頂きます。					
評価方法	学則に定める評価とする。 □筆記試験 ■実技試験 □作品					
教科書			事前事後 学習と その内容	次回のテーマに合わせたスタイルの予習。学んだ内容の復習。		
教材	学校支給教材,プリント配布					
特記事項	なし					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	基礎	道具の確認 説明・頭部の名称 用語説明・ブロッキング～ピニング・黒ゴムの結び方。
2	前回の復習	前回の復習(ブロッキング,ピニング,黒ゴム結び方)・カールアイロン(内巻き,外巻き,ミックス巻き)
3	アレンジの基本	カールアイロン復習・三つ編み,編み込み,ツイスト
4	スタイリング剤説明	スタイリング剤の説明・カールアイロン復習・ハーフアップ
5	アレンジステップアップ	ストレートアイロン(ストレート,波ウェーブ)・編み込み復習・波ウェーブを生かした編み込みアレンジ
6	中間試験対策	中間試験対策・模擬試験
7	中間試験	カールアイロン巻き下ろし20分・ピニング,黒ゴム結び15分
8	ルーズアップスタイル	ストレートアイロン波ウェーブ復習・ルーズアップスタイル
9	エレガント基本	ホットカーラー・逆毛・エレガントハーフアップ
10	前回の復習と夜会巻き	ホットカーラー・逆毛復習・夜会巻き(すき毛無し)
11	エレガント ステップアップ	夜会巻き(すき毛有り)・エレガントアップスタイル
12	相モデルに挑戦	相モデルで巻き下ろし・ハーフアップ・アップスタイル
13	人頭に慣れる	相モデルアップスタイル
14	定期試験対策	期末試験対策・模擬試験・相モデル決め
15	定期試験	相モデルフリースタイル40分

科目名 (英)	エステティック I Esthetics I	年次	1	実務経験	担当	賀川 寛子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ホテルSPA、エステティック、アロマテラピーサロンで15年以上の実務経験とサロンの人材教育や運営に携わっています。専門学校では10年間の教員経験を通して、実務に活かせる専門的な知識と技術と人間力を大切にしながら、基礎を繰り返し丁寧に解説することを心がけています。国内外のクライアントに通じる技術と知識の学びを活かして、自分の肌と体が日々の生活を通じて健康で美しくなることを体感してほしいです。					
目的 科目概要	目的: お肌の悩みやより良い状態を望む方に個々の原因と対策と予防を導き出し、理想的な肌を実現する為のファイナルに関する技術と理論を学ぶ 概要: お客様に安心感や信頼感をもって頂ける接客、ファイナルの手技を身につけます。美と健康を手に入れ、豊かなライフスタイルを実現したいと願う方のための専門的な知識と技術の基礎を習得します。					
到達目標	エステティックで必要とされるファイナル技術と肌に関する知識を学ぶ。 エステのセッティング方法及びファイナルエステのクレンジングやマッサージの手順・手技を習得する。 実際の現場を想定したコミュニケーション、施術、時間管理ができ、お客さまとチームメートから信頼される存在になる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	日本エステティック協会 新エステティック学 技術編		事前事後 学習と その内容			
教材	適宜紹介する					
特記事項	コマシラ及び配布資料はファイルを作成し保管する。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ		授業内容			
1	エステティックについて概要		エステティシャンとして必要な知識の概要に触れる 世界のトリートメントについて調べて比較する			
2	エステティシャンの必要な知識と仕事の様子		エステの仕事を通じてどのようにお客様に役に立てるのか理解し、説明できる。			
3	基本的なセッティングや準備について		ベッド・ワゴン・タオルワークなどのセッティングを習得する 施術前のターバンができる 清掃や消毒方法の説明ができる			
4	ポイントメイクとホットタオルについて		ポイントメイクを落とすことができる。 ホットタオルでお顔の拭き取りを習得する			
5	クレンジングと拭き取り		クレンジングの塗布からお顔全体のクレンジング、拭き取りを習得する。			
6	ポイントメイクとクレンジングおよび拭き取り		ポイントメイクを落とし、全体のクレンジング及び拭き取りまで流れるようにスムーズに行われるように習得する。			
7	中間試験・終了後の解答解説		クレンジングまでの流れの中で、問題の洗い出しをし課題を抽出する。抽出された課題の何が苦手または分からなかったのか特定する。			
8	フェイシャルマッサージの目的と効果・禁忌について		フェイシャルマッサージの塗布と軽擦技術を習得する。肌質;普通肌を説明できる。			
9	フェイシャルマッサージ 強擦		フェイシャルマッサージと強擦技術を習得する。肌質;乾燥肌を説明できる。			
10	フェイシャルマッサージ 揉捻法		フェイシャルマッサージと揉捻法を習得する。肌質;脂性肌を説明できる。			
11	フェイシャルマッサージ 打法・振動・圧迫法		フェイシャルマッサージの打法・振動法・圧迫法を習得する。肌質;混合肌を説明できる			
12	フェイシャルマッサージ基礎総合1		力加減に注意し、筋肉やリンパを意識してすべての行程及び技術ができる			
13	フェイシャルマッサージ基礎総合2		心地よいリズムやおもてなしを意識したトリートメントを習得する			
14	フェイシャルマッサージ基礎総合3		全体を通じて流れるような、スムーズなマッサージ方法を習得する。			
15	定期試験・終了後の解答解説		セッティングなどの準備、クレンジングからマッサージまでの技術の流れで理解できていない問題の洗い出しをし課題を抽出する。抽出された課題の何が分からなかったかを特定する。			

授 業 計 画						
回数	授業テーマ		授業内容			
1	エステティックについて概要		エステティシャンとして必要な知識の概要に触れる 世界のトリートメントについて調べて比較する			
2	エステティシャンの必要な知識と仕事の様子		エステの仕事を通じてどのようにお客様に役に立てるのか理解し、説明できる。			
3	基本的なセッティングや準備について		ベッド・ワゴン・タオルワークなどのセッティングを習得する 施術前のターバンができる 清掃や消毒方法の説明ができる			
4	ポイントメイクとホットタオルについて		ポイントメイクを落とすことができる。 ホットタオルでお顔の拭き取りを習得する			
5	クレンジングと拭き取り		クレンジングの塗布からお顔全体のクレンジング、拭き取りを習得する。			
6	ポイントメイクとクレンジングおよび拭き取り		ポイントメイクを落とし、全体のクレンジング及び拭き取りまで流れるようにスムーズに行われるように習得する。			
7	中間試験・終了後の解答解説		クレンジングまでの流れの中で、問題の洗い出しをし課題を抽出する。抽出された課題の何が苦手または分からなかったのか特定する。			
8	フェイシャルマッサージの目的と効果・禁忌について		フェイシャルマッサージの塗布と軽擦技術を習得する。肌質;普通肌を説明できる。			
9	フェイシャルマッサージ 強擦		フェイシャルマッサージと強擦技術を習得する。肌質;乾燥肌を説明できる。			
10	フェイシャルマッサージ 揉捻法		フェイシャルマッサージと揉捻法を習得する。肌質;脂性肌を説明できる。			
11	フェイシャルマッサージ 打法・振動・圧迫法		フェイシャルマッサージの打法・振動法・圧迫法を習得する。肌質;混合肌を説明できる			
12	フェイシャルマッサージ基礎総合1		力加減に注意し、筋肉やリンパを意識してすべての行程及び技術ができる			
13	フェイシャルマッサージ基礎総合2		心地よいリズムやおもてなしを意識したトリートメントを習得する			
14	フェイシャルマッサージ基礎総合3		全体を通じて流れるような、スムーズなマッサージ方法を習得する。			
15	定期試験・終了後の解答解説		セッティングなどの準備、クレンジングからマッサージまでの技術の流れで理解できていない問題の洗い出しをし課題を抽出する。抽出された課題の何が分からなかったかを特定する。			

科目名 (英)	エステティック I Esthetics I	年次	1	実務経験	担当	伊藤 葉子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティー科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	CIDESCO、アロマセラピー、美容脱毛、AEA認定講師、Ajesthe認定講師などの資格を有する講師が、ボディエステティックの基礎をわかりやすく丁寧に指導する。					
目的 科目概要	<p>目的：・ボディエステティックの事前準備、お客様の誘導、配慮を学び、エステティックサロンにおける接客を理解する。 ・身体の骨格や筋肉を理解し、ボディマッサージを安全に行う。</p> <p>概要：ボディエステティックに必要な事前準備やボディマッサージを、口頭説明とデモンストレーションを通して学ぶ。相モデルで実技を行うことにより、技術者とおお客様の両方の役割を体験する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エステティシャンとしての身だしなみ、所作を習得する。 ・6手技の目的と効果を説明できる。 ・手技の密着、強弱がリズムカルに行える。 ・6手技が一連の流れで連続してできる。 					
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品</p>					
教科書	日本エステティック協会テキスト技術編 I		<p>事前事後学習とその内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業後から次の授業までの間に、自身の体またはご家族の体で20分程度手技の復習を行う。 ・適宜出された課題に10分程度取り組み、テキストやインターネットなどで調べて期限までに提出する。 			
教材	筆記用具、タオル、消毒剤、オイル					
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・指定されたエプロン、ネームバッジを着用する。 ・ボディエステティックができる身だしなみを整える。 ・相モデルで技術を行うため健康に留意する。 					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	ボディエステティックの目的	ボディ実技の目的を学び、身だしなみと事前準備、お客様のお通しの方法などを実習する。
9	技術者の基本姿勢	ボディ実技を行うために必要な、体に負担のかからない正しい姿勢と体重移動を学び、デモンストレーションを通して動きを理解する。自身の体で正しい姿勢と体重移動を実践する。
10	お客様準備と配慮	お客様への声がけや気配りの方法、タオルドレーピングを学ぶ。相モデルで行うことのお客様の視点からエステティックサービスの重要性を体感する。
11	6手技の習得	ボディ実技の6手技を、それぞれの手技の効果と特徴をふまえながら実習する。強弱や密着に留意し相モデルで協力し合いながら行う。
12	下肢前面マッサージ	下肢前面のマッサージの手順を覚え、6手技を連続して行う。相モデルで協力し合いながら行う。
13	下肢後面マッサージ①手技の確認	下肢後面のマッサージの手順を覚え、6手技を連続して行う。手の使い方や姿勢と体重移動を確認しながら行う。
14	下肢後面マッサージ②密着とリズム	下肢後面マッサージを、強弱や密着に留意しながらリズムカルに行う。
15	期末テスト	8回から14回までの内容を復習し、技術力を確認する。総括振り返り。

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅱ Career Development Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	太田 亜貴子
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
		単位	1			
講師紹介	化粧品企業に入社後、ビューティアドバイザーとして都内百貨店で10年間勤務。セクションマネージャーとして店舗運営、美容部員育成にも携わる。ベルエポックでは業界経験を活かし、トータルビューティ科の担任として学生サポート、就職指導を行う。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。			
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ワクワクホーム	情報がたくさんある時代に必要な情報だけをを集められるようになる。
2	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	自己紹介の練習	自己紹介の練習を行い、他人から見た自分の姿を把握する。
4	履歴書の書き方①	就職活動における履歴書の役割や作成のポイントを学ぶ。 基本項目を書いてみる。
5	履歴書の書き方②	履歴書の免許・資格の書き方を理解し、求人票の見方を学ぶ。
6	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
10	履歴書の書き方③	履歴書のその他の項目について学び、準備をする。 エントリーシートとの違いを知る。
11	面接ロールプレイ	模擬面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12	電話のかけ方	電話のかけ方を学び、印象の良い電話対応が出来るようになる。
13	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14	就職対策	春休みの就職活動について理解し、主体的に活動をするための手段を理解知る。
15	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。

科目名 (英)	英会話 English	年次	1	実務経験	担当	ILC
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
講師紹介	滋慶学園の英語教育に長期にわたって携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブ教師が、高校までの英語教育と異なり、学生が外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。					
到達目標	美容の様々なビジネスシーンでお客様と英語で基本的なコミュニケーションを取ることが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	English for Beauticians	事前事後 学習と その内容	自宅で教科書の予習・復習を行うこと。			
教材						
特記事項	教科書、ノート、筆記用具を持参し、配布されたプリントはファイルに取っておくこと。先生が板書した内容を丁寧にノートに取ること。積極的に授業に参加してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	Unit 1 挨拶	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる 自身の仕事について紹介出来るようになる
2	Unit 2 電話予約	電話予約の表現を学ぶ 電話で予約を承ることが出来るようになる
3	Unit 3 飛び込み客	飛び込み客への対応の表現を学ぶ 飛び込み客の対応が出来るようになる
4	Unit 4 お客様へ質問する	丁寧な質問の仕方を学ぶ お客様に丁寧な質問が出来るようになる
5	Unit 5 道案内	道案内の表現を学ぶ サロンまでの道案内が出来るようになる
6	Unit 6 会計	会計の表現を学ぶ 会計をすることが出来るようになる
7	中間試験	中間試験
8	Unit 8 施術中	気遣う表現を学ぶ 施術中お客様を気遣う表現が出来るようになる
9	Unit 9 お客様の要望	丁寧な質問の仕方を学ぶ2 お客様に仕上がりはどのようにしたいか聞くことが出来るようになる
10	Unit 10 おすすめのメニュー	物事をすすめる表現を学ぶ お客様にあるメニューをおすすめ出来るようになる
11	Unit 11 おすすめの商品	物事をすすめる表現を学ぶ2 お客様にある商品をおすすめ出来るようになる
12	Unit 12 お客様を褒める	褒める表現を学ぶ お客様を褒める表現が出来るようになる お客様と雑談出来るようになる
13	Unit 13 雑談	会話を続ける方法を学ぶ お客様と雑談出来るようになる2
14	Unit 14 復習	Unit 1-13 復習
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	パーソナルカラー Personal Color	年次	1	実務経験	担当	矢田部 倫子
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30			
		単位	2			
講師紹介	デザイン・建築の分野での経験と知識を活かし、現在は色彩の仕事(カラープランナー)をしています。色による効果は様々ですが、人に対して色がどのような影響を与えています。「人」に使える色(似合う色・コーディネート)について、色の効果を体感して楽しみながら学べるようにお伝えします。					
目的 科目概要	目的：美容業界で必要とされる色彩の基礎知識をパーソナルカラーを通して身につけ、資格取得を目指す 概要：この科目では、色彩の基礎知識の他、パーソナルカラーの基礎知識も体験しながらしっかりと学ぶことができます。色彩の視点を得ることで、お客様へのアドバイス・提案にも活かすことができ、美容業界に携わる人にとっては特に役立つ知識です。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の基礎知識およびパーソナルカラーの基礎知識の習得を目指す ・パーソナルカラー(似合う色)を効果的に取り入れることによる自分ブランディング力向上や表現の幅を広げることを目指す ・色彩活用パーソナルカラー検定3級合格を目指す 					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	色彩活用パーソナルカラー検定3級 公式テキスト・問題集		事前事後 学習と その内容	授業内容を身の回りで探して見つけ、どんな印象を受けたのかを考えてみてください。(色の印象・イメージを言葉で覚えることができます) 学習・復習は、なるべく友達と一緒にやってください。(解らないことを聞く・確認する・教え合うことで、お互いに内容の理解が深まります)		
教材	新配色カード199b					
特記事項	演習(色素チェック・ドレーピング)において、メイク・カラーコンタクトNGの回があります。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	パーソナルカラー概要 / 色彩の基本①	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルカラーの意味と必要性、判断の裏付けとなるモノを大枠を学ぶ ・色彩の基本である「色の三属性(色相・明度・彩度)」のうち「色相」を理解する
2	色彩の基本②(色の三属性)	<ul style="list-style-type: none"> ・「色の三属性(色相・明度・彩度)」のうち「明度」「彩度」を理解する ・「色の三属性」を使って、色を表現(伝えられる)ようにする
3	色彩の基本③(トーン)	<ul style="list-style-type: none"> ・色の表現方法として「トーン」について理解する ・色とイメージ(言葉)の関わりを学び、色の表現力を養う
4	4シーズンのカラーパレット	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルカラーでの色の三属性の捉え方を理解する ・パーソナルカラーの4つのパレットについて、色の特徴とイメージを理解する
5	色素	<ul style="list-style-type: none"> ・「色素(肌・髪・眼)」の特徴と傾向を理解する ・グループに分かれて、各自の色素チェックを行う → 自分に似合う色の傾向を予想する
6	代表的な色素傾向 / ドレーピング手法	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な色素傾向を理解する ・ドレーピングによる似合う色の判断の方法を知る
7	中間試験 / ドレーピング①	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレーピングによる似合う色の判断の方法を知る ・ドレープの色による顔映りの変化を体感する → 顔映りの善し悪しを判断する練習
8	ドレーピング②	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれてドレーピングを行う ・似合う色の傾向と理由、似合わない色の傾向と理由を捉える(色素との関連性を知る)
9	似合う色の取り入れ方	<ul style="list-style-type: none"> ・似合う色の取り入れ方のポイントを知り、自分や他者へのアドバイスに活かす ・素材、柄、金属の選び方を含めたコーディネートテクニックを知る
10	色名	<ul style="list-style-type: none"> ・色の表現方法の一つとして、色名(系統色名/慣用色名)について学ぶ ・代表的な慣用色名について、色名と色とを確認する
11	光	<ul style="list-style-type: none"> ・色を見るために必要となる「光」について、基礎知識を学ぶ ・検定での出題傾向に基づき、要点を抑え理解する
12	対比	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレーピングによる顔映りの変化の基礎理論である「対比」について原理を学ぶ ・検定での出題傾向に基づき、要点を抑え理解する
13	総復習(検定対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ内容について、検定出題傾向に基づき要点を復習する ・過去問題を例に、出題形式や出題傾向に慣れる
14	検定試験	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験の実施(色彩活用パーソナルカラー検定3級 / 試験時間 60分)
15	定期試験 / まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の実施

科目名 (英)	メイクアップⅡ Make up Ⅱ	年次	1年	実務経験	担当	高岸裕一
		授業形態	講義・演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会の理事、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショーなど大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	美容部員として必要な技術力・知識力・販売力を身につける。CAA全国化粧品販売員検定協会ブロンズ・シルバー資格を取得する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ・シルバー資格を取得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	CAA全国化粧品販売員検定協会公式テキスト ブロンズ・シルバー	事前事後 学習と その内容	化粧品販売員検定取得する事により現場のOJTやブランド就職先のアプローチに繋がる。			
教材	メイク道具一式					
特記事項	授業前にメイク道具をセッティング					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介・化粧品業界の動向とブランド分析	自己紹介・化粧品業界の動向・ブランド分析 ブランドメイク実技(セルフ)
2	化粧品学(基礎)①スキンケアアイテム	基礎化粧品の分類と特徴・パウダーレスのツヤ肌メイク実技
3	化粧品学(基礎)②メイクアップアイテム	仕上げ用化粧品の分類と特徴・タッチアップアイメイク実技(六分割)
4	接客販売①&タッチアップ	化粧品販売員の役割・心構え・ホスピタリー・身だしなみ・パーソナルスペースなど、タッチアップメイク実技(つり目)
5	接客販売②&タッチアップ	お客様の分類・集客・売上・販売行動・アプローチ・クロージングなど、タッチアップメイク実技(たれ目)
6	化粧品販売員検定ブロンズ 模擬テスト	ブロンズ模擬テスト、タッチアップメイク実技(丸い目)
7	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験対策	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験対策
8	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験
9	化粧品学(応用)①&タッチアップ	薬事法・化粧品成分・美白成分・最新有効成分など、色相Y:イエローベースメイク実技
10	化粧品学(応用)②&タッチアップ	品質向上・安定化成分・メイクアップ構成成分・フレグランスなど、色相B:ブルーベースメイク実技
11	皮膚科学①&タッチアップ	皮膚とは・血液リンパ・季節と肌など 明度L:ライトトーンメイク実技
12	皮膚科学②&タッチアップ	スキンタイプ・肌のトラブルなど 明度D:ディープトーンメイク実技
13	スキンケアカウンセリング&タッチアップ	スキンケアカウンセリング手順など 彩度V:ビビットカラーメイク実技
14	化粧品販売員検定シルバー定期試験対策	化粧品販売員検定シルバー中間試験対策 彩度S:ソフトカラーメイク実技
15	化粧品販売員検定シルバー定期試験	化粧品販売員検定シルバー中間試験 似合わせメイクアップ実技

科目名 (英)	ヘアメイクⅡ Hair Make upⅡ	年次	1年	実務経験	担当	台英行
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ヘアメイク事務所に所属し美容師を務めたのち、撮影現場や大手化粧品ブランドのヘアメイクアーティストとして活躍中の講師。					
目的 科目概要	シーン別のヘアスタイル・メイクアップの知識と技術を学び、習得する。					
到達目標	シーン別・場所や求められるイメージ像を分析し、理解しながらヘアメイクに落とし込めるようにする。 ヘアとメイクのバランスを知る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	メイク道具一式/ヘア道具一式					
特記事項	授業前に道具をセッティング					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	ヘア基礎復習・基礎技術チェック	今まで学んだのヘア基礎技術のチェックする				
2	ブライダル参列スタイル(ハーフアップ)	ブライダルのお呼ばれで使えるハーフアップスタイルを作成する。				
3	ブライダル参列スタイル(アップスタイル)	ブライダルのお呼ばれで使えるアップスタイルを作成する。				
4	ブライダル参列スタイル(和装スタイル)	ブライダルのお呼ばれで使える和装スタイルを作成する。				
5	ブライダル 参列メイク①	ブライダルのお呼ばれで使えるメイクアップを実習する。				
6	ブライダル 参列メイク②	ブライダルのお呼ばれで使えるメイクアップを実習する。				
7	中間試験対策:参列スタイル	中間試験対策:参列スタイリングトレーニング				
8	中間試験:参列スタイル	中間試験:ブライダル 参列スタイル				
9	トレンドスタイル①お団子	トレンドのお団子スタイルを作成する。				
10	トレンドスタイル②ルーズ	トレンドのルーズスタイルを作成する。				
11	トレンド:韓国風メイク	韓国風メイクを実習する。				
12	トレンド:チャイボーグ	チャイボーグメイクを実習する。				
13	ヘア&メイク (トレンドパターン)	メイクとヘアセットを合わせたイメージ作りをする。				
14	定期試験対策	定期試験対策				
15	定期試験	定期試験:メイク				

授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	ヘア基礎復習・基礎技術チェック	今まで学んだのヘア基礎技術のチェックする				
2	ブライダル参列スタイル(ハーフアップ)	ブライダルのお呼ばれで使えるハーフアップスタイルを作成する。				
3	ブライダル参列スタイル(アップスタイル)	ブライダルのお呼ばれで使えるアップスタイルを作成する。				
4	ブライダル参列スタイル(和装スタイル)	ブライダルのお呼ばれで使える和装スタイルを作成する。				
5	ブライダル 参列メイク①	ブライダルのお呼ばれで使えるメイクアップを実習する。				
6	ブライダル 参列メイク②	ブライダルのお呼ばれで使えるメイクアップを実習する。				
7	中間試験対策:参列スタイル	中間試験対策:参列スタイリングトレーニング				
8	中間試験:参列スタイル	中間試験:ブライダル 参列スタイル				
9	トレンドスタイル①お団子	トレンドのお団子スタイルを作成する。				
10	トレンドスタイル②ルーズ	トレンドのルーズスタイルを作成する。				
11	トレンド:韓国風メイク	韓国風メイクを実習する。				
12	トレンド:チャイボーグ	チャイボーグメイクを実習する。				
13	ヘア&メイク (トレンドパターン)	メイクとヘアセットを合わせたイメージ作りをする。				
14	定期試験対策	定期試験対策				
15	定期試験	定期試験:メイク				

科目名 (英)	スキンケアアカウンセリング I Skin Care Counseling I	年次	1	実務経験	担当	浅野 景子
		授業形態	講義・演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	90	有		
		単位	6			
講師紹介	化粧品ブランドで接客接客、ビューティアカウンセリングとアドバイスを長きにわたり従事し、監督職として部下育成に貢献してきています。スキンケアインストラクターとして専門教育を行っています。ビューティアドバイザー、メイクアップアーティストを目指す皆さんにスキンケアアドバイスを行うために欠かせない基本的な知識とスキンケアテクニックをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:化粧品カウンターで、スキントイプ別や肌の悩み別のスキンケアアドバイスを的確にできるための基本的な知識とカウンセリング技術を修得する。 概要:この科目ではスキントイプ別や肌の悩み別の皮膚の状態、その肌に合わせたスキンケアのアイテム、有効成分、スキンケアステップ、使用方法を学ぶ。また、就職活動に向けて化粧品ブランドについて調べ情報収集しプレゼンテーションを行う。					
到達目標	スキンケアアカウンセリングを行うにふさわしい接客マナーを身につける。 スキントイプを見極め、皮膚の状態を説明することができる。 スキンケアアカウンセリングを行いスキンケアアドバイスができる。 化粧品ブランドの歴史、化粧品の特徴や傾向、ブランドイメージの情報を収集しプレゼンテーションができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書		事前事後 学習と その内容	百貨店、ドラッグストアなどの化粧品カウンターに出向き、それぞれの化粧品ブランドの商品特徴やブランドイメージの情報を収集し、特にこの授業ではスキンケアアイテムの知識を広げることが望ましい。			
教材						
特記事項	化粧品ブランド研究のディスカッションに、プレゼンテーションの資料となるものと各自のレポートを持参し活用する。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	化粧品の歴史・接客マナー	化粧品の歴史を学ぶ。 ビューティアドバイザーの接客マナーを学び、スキンケアを扱うにふさわしい立ち居振る舞いを演習する。
2	化粧品と法律・接客の7大用語	薬機法による化粧品の定義を学ぶ。 接客の7大用語、敬語を使い分けた会話を演習し修得する。
3	化粧品ブランド・スキンケア化粧品	化粧品ブランドを国産と外資系に分ける。 洗浄スキンケア化粧品、整肌スキンケア化粧品、賦活スキンケア化粧品、保護スキンケア化粧品の種類と使用目的を学ぶ。
4	ブランド研究プレゼンテーション ドライスキンカウンセリング&アドバイス	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 ドライスキンの皮膚の状態を説明することができ、カウンセリング内容とスキンケアポイントを学ぶ。
5	ブランド研究プレゼンテーション オイリースキンカウンセリング&アドバイス	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 オイリースキンの皮膚の状態を説明することができ、カウンセリング内容とスキンケアポイントを学ぶ。
6	ブランド研究プレゼンテーション ニキビ肌カウンセリング&アドバイス	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 ニキビができる過程を習得し皮膚の状態を説明することができる。カウンセリング内容とスキンケアポイントを学ぶ。
7	中間試験	ドライスキン、オイリースキン、ニキビ肌のスキンケアアカウンセリング、及びそれぞれのスキンケアアドバイスをを行うための基本的な知識とカウンセリングポイント、及び薬機法による化粧品の定義を修得できているか確認する。
8	ブランド研究プレゼンテーション コンビネーションスキンカウンセリング&アドバイス	4～6回以外の外資系ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 コンビネーションスキンの皮膚の状態を説明することができ、カウンセリング内容とスキンケアポイントを学ぶ。
9	ブランド研究プレゼンテーション 紫外線による皮膚への影響とサンケア	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 紫外線種類別の特徴、それぞれの皮膚への影響を学び、紫外線対策のスキンケアの基本的な知識を学ぶ。
10	ブランド研究プレゼンテーション シミができる原因とメラニン生成の過程	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 シミの種類、メラニンが過剰生成となる原因と生成過程を学ぶ。
11	ブランド研究プレゼンテーション シミが気になる肌カウンセリング&アドバイス	ブランド情報を基にプレゼンテーションを行う。 メラニンの生成過程を復習し、美白化粧品・ホワイトニング化粧品の使用目的、有効成分、スキンケアポイントを学ぶ。
12	コスメティック用語 しわが気になる肌カウンセリング&アドバイス	ア行～カ行のコスメティック用語を習得する。 表皮性しわと真皮性しわそれぞれの皮膚の状態と原因を学ぶ。
13	コスメティック用語 しわが気になる肌カウンセリング&アドバイス	サ行～ナ行のコスメティック用語を習得する。 表皮性しわと真皮性しわそれぞれの皮膚の状態を説明することができ、カウンセリング内容とスキンケアポイントを学ぶ。
14	コスメティック用語 スキントイプ別・肌の悩み別 カウンセリング&アドバイス	ハ行～ワ行のコスメティック用語を習得する。 スキントイプ別・肌の悩み別カウンセリングとスキンケアアドバイスのロールプレイを行う。
15	定期試験	紫外線による皮膚への影響と紫外線対策の知識、シミが気になる肌やしわが気になる肌のカウンセリングを行える知識と基本的なスキンケアアドバイス知識を修得できているか確認する。

科目名 (英)	ファッションデザイン Fashion Design	年次	1	実務経験	担当	山内 ひとみ 谷村 純子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60			
		単位	4			
講師紹介	日本画を学びながら長年デッサン講師として美容系の学生さんに携わり美容を目指す人の個性の中に美意識を感じてきました。その意識を具現化出来るように取り組みます。美術・デザインを学び、長年デザイン業務に関わってきた教員がデザインに必要な視点、知識を教える。					
目的 科目概要	自ら描けるようデザインの基本を学びます。 ファッションやメイクに活かせるデザインの基礎力をつける。 デザインに用いるものにより、見え方や感じ方に違いを学び、自らのセンスアップにつなげることができる。					
到達目標	スタイル画を描く事を通して美を意識できるようになる。 美容業界で働くものとして、自分自身もファッションを楽しみ、センスを磨くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容	授業開始前に鉛筆を必ず削っておくこと。 着彩においてはメイクパレットを使用する。		
教材	クロッキー帳・鉛筆・メイクパレット・練り消しゴム					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	線 面 立体	線練習..線の感情をしり .円. 楕円美しい描き方 立体の光と影グラデーションを学ぶ 頭部の立体を学び相モデルデッサンで顔、頭部の立体感を学ぶ
2	顔のパーツバランス	顔縦3等分 横3等分バランス 顔のパーツの造りと立体を理解しデッサンする 自画像を描く事により顔のバランス立体感を学ぶ
3	メイクデザイン	スタイル画にイメージ変えたデザインする、デザインにシルエットでヘアスタイルをデッサンする 色のイメージ バランスを考えたアイメイクデザインする
4	8頭身・10頭身スタイル画デッサンする	人体のバランスを学び8頭身で時代の流行ファッション・10頭身でブライダルスタイル画を描く ファッションデザイン画に合わせたメイクデザインデッサンする
5	スタイル画向きと重心	重心、向きを意識して舞台衣装を描く 【定期試験】 / スタイル画メイク・ファッションスタイル画
6	デザインとアートについて	・振り返り主観的な考え方と客観的な考え方デザインの手順について ・デザインをするうえで重視すべきポイントを知る。
7	デザインをする上で必要な感覚を知る	・持つべき視点 ・日常生活でデザインのヒントを見つける。
8	視線の誘導とレイアウトについて	・視認性、誘目性、可読性とは ・シンメトリーとアシンメトリー、リズム、バランスについて ・身のまわりにあるデザインについて考える。
9	デザインと仕事について	・身の回りにある広告について考える ・カメラマン、衣装、スタイリスト・照明それぞれの役割 ・チームでものづくりをすることについて理解する。
10	デザインについて	【定期試験】 / デザインが持つ特性を考える。
11	映像からトレンドとベーシックのスタイリングを知る	スタイリングからキャラクター性やテイストの好みを知る
12	コレクションからトレンドを知る	ファッションショーなどのコレクションから、ストリートファッションにどのような影響を与えているかを学び理解する。
13	SNSからトレンドを知る。	SNSからのトレンド発信の仕方やトレンドの押さえ方を学び理解する。
14	プレゼンボードを使ってのプレゼンの仕方	プレゼンボードの製作方法とプレゼンの仕方を学び、習得する。
15	定期試験	【定期試験】プレゼンボードを使ってプレゼンをする。

科目名 (英)	ビューティメイク I Beauty Make up I	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な理論と技術を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、メイクアップイメージを作り上げる。 科目概要:形・色彩・質感が持つイメージを学び、それを組み合わせることでメイクアップイメージを表現できることを理解する。					
到達目標	形・色・質感を変化させ組み合わせることでメイクアップイメージを作り上げることができる。 限られた時間内で様々なメイクアップを仕上げることができる。 様々なメイクアップ表現に必要な専門的な技術を習得することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取って欲しいです。授業で使用したスポンジ・パフなどは毎回必ず洗浄しておいて下さい。		
教材	学校指定のメイク教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時にコマシラパスの提出をしていただき、その提出状況を課題点とします。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	フルメイク	フルメイクをしてみて今の段階での得意・不得意を知ることができる。
2	直線メイク	メイクアップで各パーツの直線的なラインの描き方を習得する。
3	曲線メイク	メイクアップで各パーツの曲線的なラインの描き方を習得する。
4	上昇メイク	メイクアップで各パーツの上昇的なラインの描き方を習得する。
5	下降メイク	メイクアップで各パーツの下降的なラインの描き方を習得する。
6	中間試験演習 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。 中間試験の注意点を確認する。
7	中間試験 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。【配点20点】
8	フルメイク	1～7週までの振り返り。フルメイクを時間内(40分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。 テーマに沿ったフルメイクがバランス良く仕上げることができる。
9	質感別メイク ツヤとマット	メイクアップにおける質感ツヤとマットに見せるテクニックを習得する。 メイクのイメージの違いに合わせて質感を選択することができる。
10	イメージメイク①「キュート」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをキュートに作り上げることができる。
11	イメージメイク②「クール」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをクールに作り上げることができる。
12	イメージメイク③「エレガント」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをエレガントに作り上げることができる。
13	撮影実習のためのデザインシート作成	ヘア・メイク・衣装・小物などトータルで創作し、デザインシートに起こすことができる。
14	定期試験の練習 撮影実習のための作品制作	スチール撮影のためのフルメイクを習得する。 時間内にフルメイクができるスピーディに仕上げる技術を習得する。 定期試験の注意事項を確認する。
15	定期試験	撮影のためのフルメイクができる 時間内でフルメイクができる【配点50点】

科目名 (英)	ネイリスト検定対策 I Nail for Examination I	年次	1年	実務経験	担当	殿村 雅子
		授業形態	講義・実習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	木下ユミメークアップ&ネイルアトリエ所属のネイリストとして現場の経験を活かし技術指導を行う。					
目的 科目概要	ケアカラーやチップラップの復習し、ペイントアートの授業を取り入れ、ネイリスト技能検定2級合格レベルの技術を身につけるように授業を行う。中間試験と定期試験でより技術の練習を増やし、合格率を高めて受講してほしい。コンテストなどに参加される生徒の方もいらっしゃるの、入賞する大切なポイントを理解し授業に臨んでほしい。					
到達目標	実際に相モデルトレーニングを行い検定時間内に技術を終わる事が出来る。ネイリスト技能検定2級に合格商品の特性を習得し、技術の向上を図る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック		事前事後 学習と その内容	技術の予習・復習をすることが望ましい。		
教材	検定道具一式、検定要項					
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモを取る事。講義において、ノートを丁寧にとる事。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	チップラップを覚える	デモンストレーション。トレーニングハンドを使用
2	チップラップのマスター	トレーニングハンドを使用
3	チップラップのマスター	トレーニングハンドを使用
4	ケアカラーの復習	相モデルトレーニング。カラーリングを重点に実施。
5	チップラップ・ケアカラーの復習・練習	相モデルで実施。
6	中間試験に向けての対策・練習	相モデルで実施。
7	中間試験	相モデルで実施。2級内容
8	ネイリスト技能検定2級対策	要項・採点基準確認・ケアカラートレーニング。相モデルで実施。
9	ペイントアートをマスターする	検定課題のアート・色彩学復習。デモ、チップトレーニング
10	ネイリスト技能検定2級対策	ケアカラーアートトレーニング。相モデルで実施。
11	ネイリスト技能検定2級対策	模擬試験、実技採点表確認、タイムトライアル。
12	ネイリスト技能検定2級対策	各自弱点を意識したトレーニング。相モデルで実施。
13	ネイリスト技能検定対策・コンテスト対策	相モデルトレーニング
14	ネイリスト技能検定対策・コンテスト対策	相モデルトレーニング
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	ジェルネイル検定対策 I Nail for Examination I	年次	1年	実務経験	担当	殿村 雅子
		授業形態	講義・実習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	木下ユミメークアップ&ネイルアトリエ所属のネイリストとして現場の経験を活かし技術指導を行う。					
目的 科目概要	ジェルネイルの基本を知識として身に付け、技術や知識の手順を学ぶ。同時にアートの仕方・グラデーション・デザインなども理解しながら受講してほしい。 ジェルネイルの基礎技術を習得し、必ずジェルネイル検定初級に合格出来るよう授業を行う。その為には、中間試験と期末試験を取り入れ技術面と知識に置いてしっかり勉強し、合格基準に持っていけるよう授業に臨んでほしい。					
到達目標	ジェルネイル初級に合格できるデザインアートを勉強し身に付ける。 ジェルアートを覚えデザイン性のあるジェルネイルが施術できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JNAテクニカルシステムベーシックジェルネイル	事前事後 学習と その内容	技術の予習・復習をすることが望ましい。			
教材	ネイル道具一式					
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモを取る事。講義において、ノートを丁寧に取る事。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ジェルネイルの基本を知識として身に付ける	教材確認、道具の名称、使い方をデモンストレーションで解説。ジェルネイルに触れてみる。ハンドを使用
2	プレパレーションの重要性を学ぶ	プレパレーション～アプリケーショントレーニング。ナチュラルネイルのオーバーレイ、カラージェル1色塗り。相モデルで実施。
3	ジェルネイルの基本の手順を覚える	相モデルトレーニング カラージェル1色塗り
4	ジェルネイル検定初級合格レベルを目指す	要項確認・相モデルトレーニング(タイムトライアル)
5	ジェルネイル検定初級のアートレベルを上げる	【授業形態】講義・実習 【到達目標】ピーコックデモンストレーション。ハンドトレーニング。 【履修確認】小テスト2点
6	ジェルネイル検定初級合格レベルを目指す	タイムトライアル。相モデルで実施。
7	中間試験	ジェル検定初級内容 片手ケア・ジェルカラー赤・ピーコック
8	ジェルネイル検定初級合格レベルを目指す	タイムトライアル。相モデルで実施。
9	ジェルネイル検定初級直前対策	タイムトライアル。相モデルで実施。
10	ジェルアートを覚える	ドラッグアート(マーブル・ピーコック)のデモンストレーション。ハンドトレーニング。
11	ジェルアートを覚える	ドット・フラワーアートのデモンストレーション。ハンドトレーニング。
12	グラデーションの習得	グラデーションのデモンストレーション。相モデルトレーニング。
13	ジェルネイル検定初級直前確認	タイムトライアル。事前確認、仕込み。相モデルで実施。
14	デザイン性のあるジェルネイルが施術できるようになる	カラー・ラメを組み合わせアートする。相モデルトレーニング。
15	定期試験	両手ジェルカラー、アート

科目名 (英)	ネイルアート I Nail Art I	年次	1年	実務経験	担当	田野入 麻記子
		授業形態	実習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	ネイリストとして国内のみならずニューヨークコレクションなどのファッションショーでのバックステージや、海外での一流アーティストの撮影にも携わる。また、日本ネイリスト協会の常任本部認定講師としてネイリスト検定試験の試験官を長きにわたり務めている。					
目的 科目概要	アクリル絵の具やジェルを用いて色むらなく描く技術と、繊細で細い線が描けるように指導します。					
到達目標	平面的なアートではなく奥行きを感じられる深い作品ができるように指導していきます。繊細でクオリティーの高い作品に仕上げることができる。撮影実習用のネイルチップを完成させる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容	ネイリストとして必要な知識と技術を定着するために、学んだ内容は復習する。 また色んな爪の状態を理解するため、数多くのモデルに技術を施すことが望ましい。		
教材						
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ペイントアート①	サロンワークで特に需要があるフラワーを中心としたフラットアートを作成する。
2	ペイントアート②	サロンワークで特に需要があるフラワーを中心としたフラットアートを作成する。
3	ジェルアート①	サロンワークで特に需要があるジェルアートを中心としたフラットアートを作成する。
4	ジェルアート②	サロンワークで特に需要があるジェルアートを中心としたフラットアートを作成する。
5	アート総合①	サロンワークで特に需要がアートを中心としたサンプルを作成する。
6	アート総合②	サロンワークで特に需要がアートを中心としたサンプルを作成する。
7	中間試験	時間内にサロンワークで特に需要がアートを中心としたサンプルを作成する。
8	撮影用作品作成①	撮影用などに使われるロングチップでの作品作りの基礎を学ぶ。
9	撮影用作品作成②	撮影用などに使われるロングチップでの作品作りの基礎を学ぶ。
10	撮影用作品作成③	立体アートの作成。
11	撮影用作品作成④	立体アートの作成。
12	撮影用作品作成⑤	作品の背景作り。
13	撮影用作品作成⑥	テーマに沿った作品を仕上げる。
14	撮影用作品作成⑦	テーマに沿った作品を仕上げる。
15	定期試験	テーマに沿った作品を時間内に仕上げる。

科目名 (英)	ネイルアート I Nail Art I	年次	1年	実務経験	担当	阿部 恵理子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	経験豊富なネイリストとしてサロンワークの知識と技術を授業できめ細やかに指導する。					
目的 科目概要	アクリル絵の具で色むらなく描く技術と繊細で細かい線が描けるように、またクオリティーの高い作品をつくることを目指す。					
到達目標	平面的なアートだけではなく、奥行きを感じられる深い作品ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	テクニカルシステムベーシック	事前事後 学習と その内容	技術上達のため自宅で練習して実力をつけること。			
教材	ネイル道具一式					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	アクリルペイントアート①	3級で習った花を復習しながら、ステップアップして難しい花(桜やマーガレット)にも挑戦してみる。
2	アクリルペイントアート②	ヒョウ柄、ゼブラなどのアニマル柄やレースなど線の強弱が絵の具で描けるようになる。
3	トールペイント①	アクリル絵の具で薔薇が描けるように練習する。
4	トールペイント②	アクリル絵の具で薔薇や牡丹が描けるように練習する。
5	人物①	アクリル絵の具で人物が描けるようになる。
6	人物②	アクリル絵の具で立体的に人物が描けるようになる。
7	人物③	アクリル絵の具で立体的に人物が描けるようになる。
8	定期試験	規定の時間内にトールペイントと人物を組み合わせた5枚セットのネイルチップを作成する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	ネイル技術 I Nail Art I	年次	2	実務経験	担当	阿部 恵理子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	コンテスト出場者、過去入賞者を指導した実績から傾向と対策を考えてアート、イクステンション技術を教えるのと同時に自身でデザインをする力を育てていきたい。					
目的 科目概要	コンテストに必要なアートとイクステンション技術などのネイルテクニックとデザイン力を学び、コンテストで通用する技術を身につける。					
到達目標	コンテストに必要なアートとイクステンション技術などのネイルテクニックとデザイン力を学び、コンテストで通用する技術を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	テクニカルシステムベーシック		事前事後 学習と その内容	学内外のコンテストに参加するために授業で習った技術の練習、タイムトライアルを行うことが望ましい。		
教材	ネイル道具一式					
特記事項	作品に合わせた材料を都度用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	動物/犬、猫	鉛筆でデッサンして顔のパーツの配置、バランスを練習後ネイルチップを作成する。
2	動物/鳥、魚	ネイルチップで鳥の羽や孔雀、魚の鯉や金魚を作成する。
3	人物①	1年生で習った人物を復習
4	人物②	より立体感をつけて、人物を描けるようになる
5	ボタニカル	背景になるような植物をネイルチップで練習する。
6	中間テストの練習	デザインを決めて時間内にクオリティの高い作品を作れるように練習する。
7	中間テスト	規定の時間内に5枚セットのネイルチップをつくる。
8	ネイルイクステンション復習	ジェルイクステンションを復習する。
9	ジェルチップオーバーレイ/ネイルアート	ジェルチップオーバーレイの上にアートをする。
10	ジェルスカルプチュア/ネイルアート	ジェルスカルプチュアの上にアートをする。
11	ジェルイクステンション/ネイルアート①	ジェルイクステンションの上にアートをする。
12	ジェルイクステンション/ネイルアート②	ジェルイクステンションの上にアートをする。
13	ジェルイクステンション/ネイルアート③	ジェルイクステンションの上にアートをする。
14	定期試験の練習	相モデルになってイクステンション2本に人物または動物のアートをする。
15	定期試験	相モデルになってイクステンション2本に人物または動物のアートをする。

科目名 (英)	エステティックⅡ Esthetics II	年次	1	実務経験	担当	伊藤 葉子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティー科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CIDESCO、アロマセラピー、美容脱毛、AEA認定講師、Ajesthe認定講師などの資格を有する講師が、フェイシャルエステティックをわかりやすく丁寧に指導する。					
目的 科目概要	目的: ・エステティックの事前準備、お客様の誘導、配慮を学び、エステティックサロンにおける接客を理解する。 ・皮膚の構造と作用を理解し、お客様の肌状態に留意したエステティックトリートメントを安全に行う。 概要: エステティックに必要な事前準備やトリートメントを、口頭説明とデモンストレーションを通して学ぶ。相モデルで実技を行うことで、技術者とお客様の両方の役割を体験する。					
到達目標	・エステティシャンとしての身だしなみ、所作を習得する。 ・エステティックセンター技術力確認試験に合格するための技術力を習得する。 ・さまざまな肌タイプに合わせたトリートメントの選択ができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	日本エステティック協会テキスト技術編Ⅰ		事前事後 学習と その内容	・毎回、授業後から次の授業までの間に、自身の顔またはご家族の顔で15分程度手技の復習を行う。 ・授業前日に教材を用意し、テキストの内容を10分程度確認しておく。		
教材	筆記用具、タオル、消毒剤、オイル、化粧品					
特記事項	・指定された制服、ネームバッジを着用する。 ・エステティックができる身だしなみを整える。 ・相モデルで技術を行うため健康に留意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	フェイシャルエステティックの基本技術確認	身だしなみ、お客様準備、クレンジング、マッサージ、仕上げの確認。
2	ディープクレンジングフォーム洗顔	フォーム洗顔の実技理論。手順と動きを理解。
3	フェイシャルパック	フェイシャルパックの実技理論。手順と動きを理解する。
4	フェイシャルコンサルテーション記入	コンサルテーションシートを作成。
5	フェイシャルトリートメント通し①口頭試問	クレンジング、コンサルテーション、ディープクレンジング、マッサージ、パック、仕上げ。
6	フェイシャルトリートメント通し②時間管理	規定時間内に出来るよう時間管理に留意。
7	中間試験	1回から6回までの内容を確認する。技術力確認テストを実施する。
8	エステティックセンター試験に向けての模擬練習① 時間管理	試験同様の手順で技術を行い、規定時間内にできるよう時間管理に留意する。
9	エステティックセンター試験に向けての模擬練習② 不得意科目の復習	試験合格に必要な知識と技術力を再確認し、不得意な分野のレベルアップを目指す。
10	リンパマッサージ	リンパドレナージの理解を深める
11	肌別スキンケア①普通肌	皮膚学の知識を活用し、普通肌の特徴をふまえた基本的なプランニングを作成。
12	肌別スキンケア②脂性肌とニキビ肌	脂性肌とニキビの特徴をよく理解し、ニキビの段階に合ったプランニングを作成。
13	肌別スキンケア③乾燥肌と敏感肌	乾燥肌、敏感肌用のプランニングを作成。
14	肌別スキンケア④老化肌	シワの特徴をふまえたプランニングを作成。
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	ボディエステ I Body Esthetics I	年次	1	実務経験	担当	峯崎 千恵美
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CIDESCO国際資格を取得して国内外で勤務経験を積み、10年以上専門学校で指導してきた教員がセンター実技試験に必要な知識と技術を教える。モデルの骨格や筋肉の状態を手で確かめられるようになり、一人ひとり体の状態には違いがあるということを理解して欲しい。					
目的 科目概要	目的: センター実技試験に必要なボディエステティックの基礎知識と技術を習得する。 概要: ボディコンサルテーション、ボディマッサージの仕方を学ぶ。					
到達目標	日本エステティック試験センター実技試験に合格する。具体的には①おもてなしの心を持ちお客様へ接客できる ②ボディトリートメントのプランニングができる ③6手技のボディマッサージが正確にできる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	エステティック協会テキスト技術編 I		事前事後 学習と その内容	授業終了後から次の授業までにテクニックの復習を行い、手順を覚える。		
教材	プリント適宜配布					
特記事項	不明な点はすぐに質問をし解決すること。分からない事をそのままにしない。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ボディマッサージ①	自己紹介、ボディトリートメントの目的、流れ 下肢後面マッサージ
2	ボディマッサージ②	ボディトリートメントの禁忌事項 腰背部のデモスト、腰背部マッサージ
3	ボディマッサージ③	マッサージに関わる骨の名称と位置 下肢前面のデモスト、下肢前面マッサージ
4	ボディマッサージ④	マッサージに関わる筋肉の名称と位置 上肢、腹部のデモスト、上肢、腹部マッサージ
5	ボディマッサージ⑤	血液、リンパについて マッサージ通し(下肢後面、腰背部、下肢前面、上肢、腹部)
6	ボディコンサルテーション	センター実技試験の概要説明、コンサルテーションの流れ、ボディチェックの仕方 試験中の口頭試問について
7	中間試験	1～6回までの演習の理解度を確認する
8	ボディエステティック通し①	ご案内、コンサルテーション、マッサージ、誘導 口頭試問に答えながらトリートメントを行う
9	ボディエステティック通し②	ご案内、コンサルテーション、マッサージ、誘導 時間内に正確なトリートメントを行う
10	ボディトリートメント①	モデルのトラブルに合わせたボディトリートメントができる
11	ボディトリートメント②	モデルのトラブルに合わせたボディトリートメントができる
12	ボディトリートメント③	モデルのトラブルに合わせたボディトリートメントができる
13	ボディトリートメント④	モデルのトラブルに合わせたボディトリートメントができる
14	ボディトリートメント⑤	モデルのトラブルに合わせたボディトリートメントができる
15	定期試験	8から14回までの演習の理解度を確認する

科目名 (英)	エステティック理論 I Esthetics Theory I	年次	1	実務経験	担当	伊藤 葉子
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティー科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CIDESCO、アロマセラピー、美容脱毛、AEA認定講師、Ajesthe認定講師などの資格を有する講師が、解剖生理学を中心にエステティックに必要な基礎知識とアロマセラピーをわかりやすく丁寧に講義する。					
目的 科目概要	目的: ・エステティックセンター試験合格に向けての基礎知識を学ぶ。 ・アロマセラピー検定1級合格に向けて基礎知識を学ぶ。 概要: エステティックトリートメントを正しく行うために必要な基礎知識を幅広く学ぶ。具体的には、解剖生理学、心身生理学、化粧品学、関連法規、アロマセラピーを学び、実技を行う際に役立てる。また、資格取得のための基礎知識を習得する。					
到達目標	・エステティックセンター技術力確認試験に必要な人体のしくみ、化粧品の基礎知識を習得する。 ・エステティックセンター筆記試験合格に必要な基礎知識を習得する。 ・アロマセラピー検定1級合格に必要な知識を習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	日本エステティック協会テキスト/アロマセラピー検定公式テキスト		事前事後 学習と その内容	・授業後の復習、授業前の予習を行うこと。		
教材	筆記用具					
特記事項	必要な内容はメモを取ること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	人体のあらまし/化粧品学①化粧品の定義と分類	・名称と区分、器官の位置、細胞、組織、器官を学ぶ。自身の体の中をイメージする。 ・化粧品を取り扱うために必要な法律、成分表示、効能表現などを理解する。
2	骨格系/化粧品学②基礎化粧品と乳化	・骨の構造と作用、関節を学び、全身の骨格の名称を覚える。 ・化粧品の役割と分類、乳化のタイプと乳化化粧品を学ぶ。
3	筋系/化粧品学③化粧品原料	・筋の構造と作用、筋の運動を学び、全身の筋の名称を覚える。 ・化粧品原料と成分を覚える。
4	循環器系①血管系/化粧品学④化粧品成分と効果	・心臓の構造と作用、血管の種類と構造、血圧、血液の成分、血球の種類、血液型。 ・メイクアップ化粧品、ボディ化粧品、頭皮頭髪化粧品、芳香化粧品など、効果と成分名。
5	循環器系②リンパ系/化粧品学⑤化粧品のホームケアアドバイス	・リンパの流れの順を覚える。 ・実技コンサルテーションで活用する化粧品成分の名称を覚える。
6	神経系/感覚器系	・神経の機能単位、神経の種類、大脳の構造、脳神経と脊髄神経を学び、名称を覚える。 ・感覚器と刺激、感覚器と五感、皮膚の感覚、目の構造と作用、耳の構造と作用、舌の構造と作用を学ぶ。
7	中間試験	1回から6回までの内容を確認する。知識力確認テストを実施する。
8	大脳生理学/心身生理学①ホメオスタシス	・大脳の進化と構造、大脳の機能、記憶のタイプとしくみを学ぶ。 ・ホメオスタシスとは何か、ホメオスタシスと自律神経について学ぶ。
9	免疫系/心身生理学②ストレス	・自然免疫と獲得免疫、抗体、免疫異常とアレルギーについて。 ・ストレスの種類と耐性、ストレスとホメオスタシス、スキントッチの重要性。
10	内分泌系/生殖器系	・ホルモンの種類と作用、内分泌腺とホルモン、分泌過不足による病気を学び、名称。 ・女性生殖器の構造と作用、女性ホルモンの名称と作用、生理のしくみと妊娠について。 ・女性の3つのステージと肥満について学ぶ。
11	消化器系/アロマセラピーの安全性	・消化器系の構成器官と作用、咀嚼と嚥下、機械的消化と化学的消化、消化の協力器官を学び、消化の順と酵素の名称。 ・アロマセラピーの基本、精油の取り扱い方法について学ぶ。
12	呼吸器系/アロマセラピーのメカニズム	・呼吸の種類、鼻の構造、においのしくみ、肺の構造と作用、ガス交換、呼吸の種類。 ・精油が伝わる経路、においの不思議について学び、アロマセラピーの利用方法。
13	泌尿器系/アロマセラピーとヘルスケア	・泌尿器系の構成器官、腎の構成単位、尿の作られ方、排尿のしくみを学ぶ。 ・睡眠のメカニズム、女性の健康と美容にアロマセラピーを活用する方法を学ぶ。
14	関連法規/アロマセラピーの歴史	・エステティックに必要な関連法規を、将来自身に起こる可能性のある実例をもとに学ぶ。 ・アロマセラピーの歴史をひもとき、アロマセラピーの発展に貢献した人物名覚える。
15	定期試験	8回から14回の内容を確認する。知識力確認テストを実施する。総括を振り返り。

科目名 (英)	エステティック概論 I Outline of Esthetics I	年次	1	実務経験	担当	峯崎 千恵美
		授業形態	講義			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CIDESCO国際資格を取得して国内外で勤務経験を積み、10年以上学校で指導してきた教員がセンター筆記試験に必要な基礎理論を教える。自分自身が美しくなる為の情報も盛りたくさん伝えていきます。どのような結果が出るか、楽しみながら実践して欲しい。					
目的 科目概要	目的: エステティック技術に必要な基礎理論を習得する。 概要: 皮膚科学、衛生管理、栄養学、電気学、運動生理学、カウンセリング学、エステティック概論、救急法、サロン経営学を学ぶ。					
到達目標	日本エステティック試験センター筆記試験に合格する 科目ごとの要点をつかんで、例題を正確に解けるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	エステティック協会テキスト、AEAテキスト、センター筆記問題集		事前事後 学習と その内容	授業内容の復習として、センター筆記問題集の関連ページを読み問題を解くこと		
教材	プリント適宜配布					
特記事項	配布プリントはファイルに整理整頓し、常に確認しやすい状態にする					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	皮膚科学①/衛生管理①	皮膚科学：皮膚の構造(キメ、表皮) 衛生管理：消毒とは、消毒方法の種類
2	皮膚科学② / 衛生管理②	皮膚科学：皮膚の構造(真皮、皮下組織、皮膚付属器) 衛生管理：感染症について(細菌、ウイルス、真菌など)、手指消毒・備品の消毒の仕方
3	皮膚科学③ / 栄養学①	皮膚科学：皮膚の生理機能 栄養学：栄養素のはたらき、5大栄養素
4	皮膚科学④ / 栄養学②	皮膚科学：肌タイプの見分け方 栄養学：基礎代謝とは、肥満の原因、BMI法、体脂肪率について
5	皮膚科学⑤ / 栄養学③	皮膚科学：肌トラブルの原因と対策 栄養学：肌トラブル別栄養素のアドバイス
6	皮膚科学⑥ / コンサルテーション①	皮膚科学：肌トラブルの原因と対策 コンサルテーション：ボディコンサルテーションシートの記入方法説明
7	中間試験	1～6回までの講義の理解度を確認する
8	皮膚科学⑦ / コンサルテーション②	皮膚科学：肌トラブルの原因と対策 コンサルテーション：ボディのお悩み別プランニングの仕方
9	皮膚科学⑧ / 電気学①	皮膚科学：美しい肌の条件、肌の美しさを損ねる要因 電気学：電気学の基礎(電気の測定単位、電気の種類、3大作用、電気の安全装置)
10	運動生理学 / 電気学②	運動生理学：主な運動の効果、有酸素運動と無酸素運動 電気学：電気学の基礎(原子の構造、イオン化とは、化学結合の種類)
11	センター筆記対策 / 電気学③	センター筆記対策：問題集の解説 電気学：イオン導入の原理、pHについて、電解質と非電解質、導体と絶縁体)
12	カウンセリング学① / エステティック概論	カウンセリング学：カウンセリングとは、カウンセリングに関わる心のしくみ エステティック概論：エステティックの概念、ソワンエステティックとは
13	カウンセリング学② / 救急法	カウンセリング学：エステティックカウンセリングとは、インフォームドコンセントについて 救急法：救命手当と応急手当、救急法の目的、サロンで起こりうるアクシデント
14	サロン経営学 / まとめ	サロン経営学：サロン開業のシミュレーション、ホスピタリティマインドについて まとめ：これまでの授業を振り返り定期試験に備える
15	定期試験	8から14回までの講義の理解度を確認する

科目名 (英)	マシントリートメント Machine Treatment	年次	1	実務経験	担当	山田 優子
		授業形態	演習			
学科・コース	トータルビューティ科	時間数	90	有		
		単位	6			
講師紹介	エステティシャンとして18年間フェイシャルケア、ボディケア等のトリートメントをさせて頂いてきました。エステ講師として10年以上エステティシャンを目指す方への教育にも従事しています。将来皆さんがエステティシャンとして社会で活躍する上で必要な基礎知識やトリートメントを行う上で大切な心遣いを身につける為の知識を実践お伝え致します。					
目的 科目概要	目的:エステティックにおける、マシントリートメントを行う為に必要な基礎知識と技術を習得する。概要:マシントリートメントを行う上で必要となる、それぞれのトリートメントの目的、効果、注意事項、禁忌事項について理解し、安全でより効果的なトリートメントをお客様へ提供出来るように理解を深める。エステティシャンセンター試験合格する為の技術と知識を磨く。					
到達目標	それぞれのトリートメントを行う上での目的、効果、注意事項、禁忌事項について説明できる。それぞれのトリートメントの手法について理解し安全で効果的な機器の取り扱いが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □筆記試験 ■実技試験 □作品					
教科書	新エステティック学 AEAテキスト		事前事後 学習と その内容	トリートメントの目的や効果などを自分の言葉で他者に伝えられる様に復習を行う事。		
教材	適宜指示					
特記事項	毎授業において必ずメモをとること。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	複合機の取り扱いについて/サクシヨンの実践	フェイシャル複合機の取り扱いと注意点について学び正しい操作方法を身につける。サクシヨンの目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。
2	拡大鏡の取り扱いについて/酵素の実践	拡大鏡の取り扱いとスキンチェック、皮膚観察について学ぶ。酵素の目的、効果、注意事項、禁忌事項を学び、手法を習得する。
3	ブラシクレンジングの実践	ブラシクレンジングの目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。
4	ゴマーージュの実践	ゴマーージュの目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。
5	エレクトロクレンジングの実践	エレクトロクレンジングの目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する
6	パターの実践	パターの目的、効果、注意事項、禁忌事項を学び、手法を習得する。主要なリンパ節について理解を深める。ガラス管の正しい取り扱いを理解する。
7	中間試験	フェイシャル機器と用具の使用法の理解と、安全で効果的な活用が出来ているかの確認をする。(相モデル実習) 苦手なトリートメントの洗い出しをし、今後の課題を抽出する。
8	モデルに合わせたフェイシャル機器の選択と実践	エステティシャンセンター試験へ向け、フェイシャルトリートメントの一連の流れを行う。モデルに合わせてフェイシャル機器を選択し実践する。
9	ボディサクシヨンの実践	ボディサクシヨンの目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。主要なリンパ節について学ぶ。
10	ボディサクシヨンの実践	ボディサクシヨンの正しく、安全な使用法を理解し、効果的な活用法を習得する。
11	G5の実践	G5の目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。
12	G5の実践	G5のそれぞれのアタッチメントの特徴を理解し、効果的な活用法を習得する。
13	低周波の実践	低周波の目的、効果、注意事項、禁忌事項について学び、手法を習得する。
14	低周波の実践	低周波の正しく、スピーディなパディングを学び、より効果的な活用法を習得する。
15	定期試験	ボディ機器の使用法の理解と、安全かつ効果的な活用が出来ているかの確認をする。(相モデル実習)